

紛争からの復興を目指すコートジボワール国から都市開発管理研修を受け入れ ～JICA「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」への支援～

平成 26 年 1 月、安倍総理が、日本の総理大臣として初めて仏語圏西アフリカ、コートジボワールを訪問されました。同国を含み、人口 3 億人を擁する 15 ヶ国が経済統合を進める西アフリカ地域に対する平和と安定・経済成長・ビジネスに関する日本の関与・支援を示しました（外務省 HP）。コートジボワール（象牙の海岸）は「西アフリカの玄関口」であり、1990 年代の政治危機・内戦から復興し、年 10%近い成長を実現しています。その中心であるアビジャンは、西アフリカ最大の港湾都市ですが、民間投資を促進するための都市インフラが脆弱であり、今後の持続可能な成長にとり喫緊の課題となっています。

国際協力機構 JICA は、昨年より都市開発管理に係る人材育成を含む「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」に着手し、この度、建設・都市計画省副局長等関係者 6 名が来日、神戸（1 月 27 日～30 日）及び東京等において技術研修を実施しました。

昨年 10 月より包括連携協定を結ぶ JICA から研修受け入れ要請を受けた神戸市と神戸すまいまちづくり公社は、(1)「環境との共生」を重視した都市計画（公社技術参与）、(2)「公共交通」を中心とした総合交通計画（インフラ整備支援課長）、(3)「環境都市／投資促進地域」総合開発政策（同）の講義を行いました。また、講義で紹介した陸・海・空の総合交通拠点であり、投資促進地域であるポートアイランドや環境・景観に配慮された都市施設や西神ニュータウンを視察しました。午前の講義では、湧き上がる興味・疑問点を丁寧に議論したため、昼休みへ 1 時間ずれ込み、視察の最後「しおさい公園」では厳冬期の日もとっぷり暮れましたが、景観ポイントからの神戸の夜景を堪能されました。また、緑豊かな西神ニュータウンでは、住民の通勤・通学の足となった自転車の駐輪場や緑道・歩道の配置及び都心への交通を支援するパーク・アンド・ライド駐車場などまちづくり計画策定における考え方を議論しました。住宅街のゴミ・ステーションでは、コミュニティによる清潔な管理、3R（リサイクル、リユース（再利用）、リデュース（減量））の日常化やその環境管理手法などに質疑の尽きることはありませんでした。

皆様から最後に、東京よりも先に「神戸」へ来るべきだった、具体的な事業を組み込んだ法制度の説明やその事業現場を包括的に解説してもらい分かりやすかった、テキスト資料は私たちにとって金鉱のようなもの、あと数日研修期間が欲しいなどのご感想・評価を頂き、当公社の研修成果として嬉しい限りです。研修員の皆様をはじめ、アビジャンの政府関係者・市民により、一日も早い内戦復興を果たし、かつて「イボワールの奇跡」と呼ばれた成長を持続可能な成長として再現されることをお祈りします。神戸港からの西アフリカ地域向け貨物がアビジャンの埠頭に溢れる日を楽しみにしております。



コートジボワール国の概要

- 1960 年独立
- 1990 年代後半～政治危機・内戦
- 2011 年選挙後にワタラ政権、国家開発計画を定め復興へ始動
- アビジャン（旧首都）
- 独立後「イボワールの奇跡」と呼ばれた年率 8%の経済成長
- 人口 370 万人（2003 年）、面積 2,119 km²、標高 25m
- 1928 年以降、4 次に渡り都市成長に応じた現代都市計画策定
- 2000 年代に人口が倍増、都市貧困層や都市圏の無秩序な拡大



JICA 関西セミナー（講義風景）



神戸空港屋上デッキ



住宅地のゴミ・ステーション



ポートライナー試乗